

令和元年度 港湾振興費の内三河港利用促進戦略検討調査業務 実施概要 (愛知県三河港務所 委託事業)

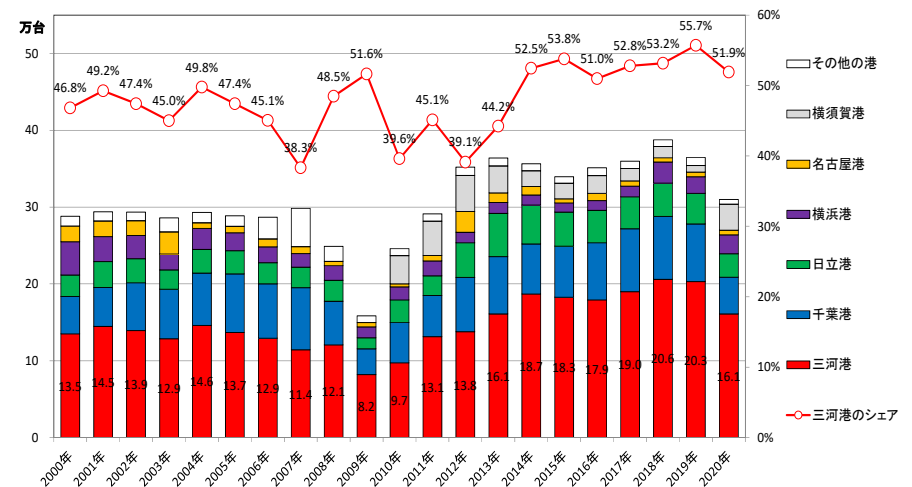
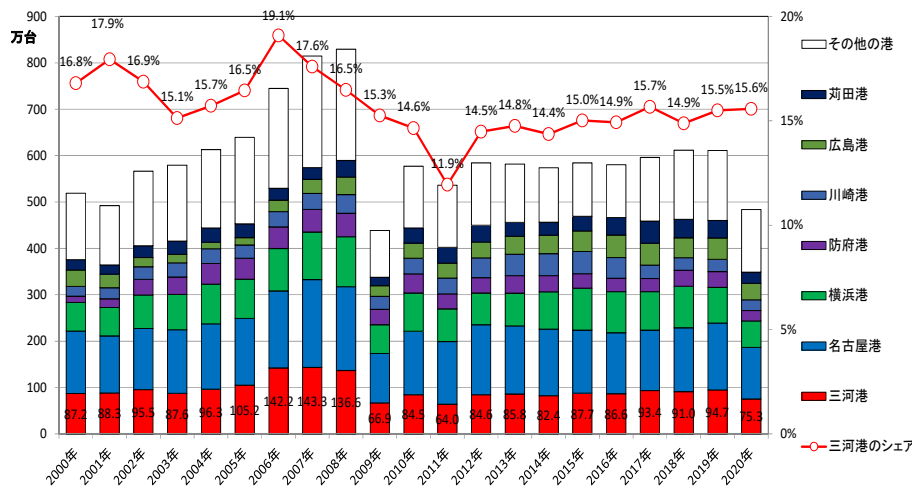
1. 業務の目的

三河港は27年連続日本一の輸入自動車をはじめとする世界的な自動車輸出入港湾であり、完成自動車は全貨物取扱量の7割を占める。その為、完成自動車の動向は三河港の取扱貨物量に直結しており、適切な状況把握やそれに応じた施策の実施は、三河港の振興業務として必須である。

本調査では、完成自動車の輸出入取扱状況調査を行い、モータープール不足などの自動車港湾における諸課題を抽出した。また、三河港背後圏のコンテナ貨物の流動調査を行うとともに、荷主等の利用企業へヒアリングを実施し、三河港を利用するにあたっての課題等を分析した。さらに、本年度は新型コロナウイルス感染拡大による取扱貨物量の減少が想定されるため、リスクマネジメントの観点から三河港の港湾整備の方向性を検討した。

以上より、三河港の取扱貨物の拡大と利用促進に向けた取り組みの方向性を検討するための基礎資料を取りまとめた。

2. 調査結果(一部抜粋)



■輸出港湾の取扱状況

2020年の日本から海外への完成自動車輸出台数は483万台で、2019年の611万台と比較すると127万台(21%)減少した。

2020年の港湾別の輸出台数をみると、最も輸出台数が多いのは名古屋港の113万台(前年144万台、23%減)、次いで、三河港の75万台(同94万台、20%減)、横浜港の56万台(同76万台、26%減)である。三河港の輸出シェアは15.6%である。

それ以外の港湾では、マツダの輸出拠点である広島港が35万台(同45万台、22%減)、日産の輸出拠点である苅田港が23万台(同37万台、37%減)となった。

■輸入港湾の取扱状況

2020年の海外から日本への完成自動車輸出台数は31.0万台で、2019年の36.4万台と比較すると5.4万台(15%)減少した。

2020年の港湾別の輸出台数をみると、三河港が16.0万台(前年20.3万台、21%減)であったが、28年連続全国1位となった。三河港の輸出台数の全国シェアは前年比4ポイント減少して51.9%となった。

三河港に次いで、千葉港が4.7万台(同7.5万台、36%減)、日立港が3.0万台(同3.9万台、24%減)であった。これらの港湾は前年より輸出台数は減少したが、逆に前年よりも輸出台数が増加した港は横浜港と横須賀港である。横浜港は2.4万台(同2.1万台、14%増)、横須賀港は3.3万台(同0.8万台、393%増)となった。横浜港と横須賀港は国内メーカーの海外生産車の逆輸入が増加したためである。